

**教育目標**

心豊かに充実した日々を送ることのできる子どもの育成  
 ～「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を育成する～

**年度末の最終評価**

自己評価  
 学校関係者評価

**教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し**

自然環境を生かした保育という視点と共に、昨年度はつながり対話をすることで学びが深まる研究してきたことから、“つながり”という視点で子どもたちの育ちを支えていけるように研究的に取り組んできた。まず、“自然”の視点としては、自然環境ボランティアには、毎月の園児向けのプレゼンテーションと、明德幼稚園の自然通信の発行という新たな試みにより、園児、教職員だけでなく、保護者も地域の自然への関心が高まり、家庭でも自然に興味関心をもって関わる姿が見られ、園での主体的な学びが広がることとなった。また、“つながり”という視点では、園内環境の見直しや事例研究などにより、教材、遊具の工夫や教師の援助を検証してきたことが、子どもたちの関係性の広がりや遊びの工夫、子どもが主体的に事象に関わったり意欲的に探求しようとしたりする育ちにつながった。

I C Tも日常的に活用し、視覚支援による理解の深まりや情報の共有などに生かしてきた。

**学校関係者による意見・支援策**

- ・地域の環境を生かした保育は引き続き深めていってほしい。
- ・自然通信やプレゼンテーションなど、これからも自然学習ボランティアのお力を存分に活用してほしい。
- ・I C Tの有効な活用は今の時代ならではのと思う。

**学校関係者評価の評価日・評価者**

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月25日	学校運営協議会
最終評価	令和5年3月15日	学校運営協議会

**（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について****具体的な取組**

- ・友達や異年齢とのつながりが生まれることを願って場をつくったり、様々な試しが生まれるような用具（足場付き板など）を手に取りやすいように置いて置いたりなど、園庭環境を見直し、つながりや対話が生まれるような環境をつくる。
- ・その場に関わっていない子どもも興味をもつきっかけになるように、I C Tを用いて、クラスや時には学年を越えて共有する機会を設ける。

(取組結果を検証する) 各種指標

○記録、事例研究による子どもの変容、 週案の反省・評価、教育課程の見直し

○アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」

中間評価

各種指標結果

- ・今年度は、地域の岩倉自然学習ボランティアが毎月数回園内の自然環境の見直し、改善に関わっていただき、その指導の下、園内環境をより充実させていくところである。
- ・園内研究のテーマを「遊びを深めるためのつながりを生み出す教師の援助や環境構成について考える～園内環境の充実と地域の自然環境を生かした保育実践を検証する」と設定した。
- ・つながりを生み出す環境の一つとして、板を遊具として利用できるように用意した。
- ・アンケート項目「子どもは自分から遊びを見つけて楽しんでいる」…年長「そう思う」84%、大体そう思う」8%、年少「そう思う」62.5%、「大体そう思う」31.3%、  
「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」…年長「そう思う」80%、「大体そう思う」16%、年少「そう思う」68.8%、「大体そう思う」25%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・毎月の自然の日のプレゼンでは、園内や園周辺の身近な環境について教えていただき、子どもたちだけでなく教職員もより知識を深め関心を高めるきっかけとなっている。
- ・アンケート結果は何れも高い値になっている。自然環境や板の遊具など子どもたちがつながり対話し思考を深めていけるようにさらなる援助や工夫を検討したい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園内の自然環境を教材として子どもの育ちに生かしていく。その中でねらいを明確にして育ちを分析する。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・エピソード研究、アンケート、週案の評価

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・昨年度のソニー教育財団による最優秀園受賞は、地域としても大変名誉なことである。本園の実践を広めていく工夫ができないか、協力できることはしていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・アンケート結果からは、“子どもが喜んで登園している”“自分で遊びを見つけている”“園は子どもが夢中になって遊ぶ環境を整えている”等の項目は何れもほぼ100%という高い数値となっている。
- ・エピソード検討により、子どもの育ちを分析してきたほか、3学期の行事も含めた様々な生活の中での子どもの育ちが見られた。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を生かした保育やつながりを生み出す環境については、アンケート結果からも高い数値が得られていることから、概ね達成できていると考える。</li> <li>・園内の環境については、遊具等の工夫はできていたが、植栽などより計画的に整備していく必要がある。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の計画の立案を綿密に行い実践していきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫がみられる環境があつていいと思う。</li> <li>・栽培では力になれることがあると思うので連携を深めていきたい。</li> </ul>

## （２）幼小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園での具体的な生活や遊びの姿（毎月の「子どもの姿」の中から抜粋して）を通して、幼児理解や教師の意図的・計画的な環境構成や援助などの幼稚園教育の発信をする。その際には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を活用する）</li> <li>・入学前の５歳児一人一人の姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、幼児の成長や教師の意図や援助などを伝え、円滑な接続を図る。</li> </ul>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応、可能ならば小学校の授業参観・研究授業の参観</li> <li>○ 保幼小連携会議への参加</li> <li>○ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善</li> </ul>

### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園通信は、小学校の教員も目を通されているので、子どもの姿を垣間見てもらえ、少しでも理解してもらえる一つとして効果的である。</li> <li>・保幼小連絡会はまだ開催されていない。</li> <li>・読書ノートの利用は年少は「そう思う」４３．８％、「大体そう思う」３７．５％、合わせると８割を超えるが、年長は「そう思う」４％、「大体そう思う」３６％、「あまりそう思わない」が５２％、となっている。</li> </ul>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読聞かせの大切さは理解されていて数値は高いが、読書ノートの利用について、特に年長児の値はかなり低くなっている。今一度、親子で絵本を読む人時の大切さと共にその足跡を残す音の意義を伝えていく必要がある。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの幼稚園通信は、発行頻度を上げるように努力する。</li> <li>・小学校の授業を参観する機会をもつ。また、合同で研修する機会をもつ。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会が開催されれば参加する。</li> <li>・読書ノートについて、利用の促進を図る。</li> </ul>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園通信の発行回数・小学校との教員同士の連携・参観・研修、読書ノートの利用についてアンケート</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長組は、絵本貸出が子どもだけになっていないか、親子でゆっくり絵本を選ぶことからその人時を大切にすることと呼びかける必要がある。</li> </ul>

#### 最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園通信の発行回数が少ないのが反省点である。</li> <li>・小学校への参観は、コロナ禍でできていなかったが、子どもたちの小学校見学や動画交換を実施した。子どもにとっては就学への期待が膨らんだ。</li> <li>・読書ノートの活用については、アンケート結果では、読み聞かせの大切さの項目については数値が高かったが、読書ノートの活用については思うように伸びていない。</li> </ul>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校見学や動画交換を実施したことは、子どもにとっては就学への期待につながった。</li> <li>・読書ノートの活用率が低かった。</li> </ul> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小の教育への理解を深めるための取組を前進させていきたい。</li> <li>・幼稚園通信は、大切なツールであるので、発行回数を増やしていきたい。</li> <li>・読書ノートについては意義を伝えたり、定期的に活用を促進したりするようにしていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナも落ち着いてきているので、幼小で様々な形で連携を深めていってほしい。</li> </ul>

### (3) 預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と預かり保育担当教員が心身の状態について引継ぎ、緊密に連携をとる。</li> <li>・時期や季節に応じた玩具や遊びの環境を整え、子どもが安心して、ゆったりとした気持ちで充実して過ごすことができるようにする。</li> <li>・早朝預かり保育での環境構成の在り方について担当教員と連携しながら充実を図っていく。また制度の地域への周知を図る。</li> </ul>
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○預かり保育参加人数</li> <li>○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。</li> </ul>

○アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など

## 中間評価

### 各種指標結果

・アンケート結果「早朝預かり保育は保護者支援になっている」の項目…年少「そう思う」81.3%、「大体そう思う」18.7%、年長「そう思う」88%、「大体そう思う」12%、で何れの学年も併せて100%である。

「子どもは預かり保育に喜んで参加している」の項目…「そう思う」年少37.5%、年長66.7%、「大体そう思う」年少18.8%、年長25%、「あまりそう思わない」年少25%、年長8.3%「わからない」年少18.8%、年長0%となっている。

「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」…「そう思う」年少43.8%、年長62.5%、「大体そう思う」年少25%、年長33.3%、「あまりそう思わない」年少12.5%、「わからない」年少18.8%、年長4.2%、となっている。

また「預かり保育は保護者にとって有効である」…「そう思う」年少93.8%、年長96%、「大体そう思う」年少6.2%、年長4%である。

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・早朝預かり保育、通常の預かり保育共、保護者支援としては、アンケートの指標が高くなっている。「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、何れの学年も100%である。
- ・一方、子ども側からみると、特に年少では「喜んで参加している」「遊びを楽しんでいる」について、「あまりそう思わない」の数値が一定ある。保護者の就労、もしくはリフレッシュという意味で預けたい保護者側と保育時間が長時間になり不安定になり、預かり保育を嫌がる子どもの姿があるからであろう。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・特に通常の預かり保育での過ごし方に心の安定感を基軸に置いた教員のかかわりが必要になってくる。担任との連携のもと、より温かな関わりができるようにしていきたい。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもの姿や保護者の声、アンケート項目

### 学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・就労支援が充実してきて保護者は働きやすくなったであろう。しかし長時間預けられる子どもは不安定になるのでしょうか。より喜んで参加できる子どもが増えるように工夫をお願いしたい。

## 最終評価

### （中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・アンケート結果では、保護者支援という側面では、早朝、通常預り保育両方のアンケート結果は、100%肯定的な結果となっている。

- ・子どもが喜んで参加しているか、楽しんでいるか、というアンケート結果も、90～100%の結果となっていて高い数値である。

### 自己

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・預かり保育の子どもにとっても保護者にとっても有用性が高いことがわかる。

評価	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部、参加しにくい子どもについては、担任との連携を密に図り、より安心できる場となるよう改善していく必要がある。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>早朝預かり保育が始まり、今の幼稚園はより就労支援という側面が色濃くなってきている。支援できることがあればしていきたい。</li> </ul>

#### （４）子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>他学年の子どもと触れ合うことで安心して過ごしたり、刺激をもらったりしながら生活や遊びが充実できるよう異学年の交流を大切にする。</li> <li>未就園児クラスと在園児クラスとどのような連携ができるか話し合い、教職員間で連携をとる。</li> <li>教師は、保護者の子育てに対する不安や悩みなどを丁寧に受け止め、共に具体策を考え、保護者の安心につなげる。</li> </ul>
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援事業への登録、参加人数の推移。</li> <li>○子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。</li> <li>○保護者の意見。</li> </ul>

#### 中間評価

各種指標結果	
・未就園児 3 歳児ひよこ組の登録者は昨年度の倍近くになるが、0～2 歳児クラスの登録者は減ってきている。その中でも、満3歳になると私立幼稚園に入園する子どもがかなり増えてきている。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・プレひよこ組（次年度 3 歳児ひよこ組登録者対象）を 9 月から実施したことで、2 歳児クラスのひよこ組登録者が昨年度より早く把握できた。しかし、満 3 歳の他園への入園者は数名あることは変わらない。
	分析を踏まえた取組の改善
	・子育て支援クラスの実施について周知を強化する工夫が必要である。 ・魅力的な取り組みを発信できるようにしていきたい。 ・2 歳児の 1 年間の親子のつながりの大切さを根気強く伝えていく必要がある。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	・子育て支援の取り組みの回数や登録者数。 ・保護者の意見。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	・9 月から社会福祉協議会の子育て支援が再開している。できる限り協力していきたい。

## 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月より、プレひよこを実施したことで、0～2歳児は実質の開催回数は増えた。しかし、登録者数は増えず、満3歳になった時点で他園の満3歳児クラスへの入園により、登録者が減少していく実態は変わらない。</li> <li>・3歳児ひよこ組は、週4～5回になり、午後保育が2回になったことは、利用者の声から満足できる結果となっていることがわかる。</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児の回数は増やしすぎても参加者が分散して交流がしにくくなると聞いた。2歳児クラスを充実させていく必要がある。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度当初からは2歳児クラスを充実させていき、プレひよこから3歳児ひよこ組につながるようにしていきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の社会福祉協議会の子育て相談が再開できるようになったので、少しでも貢献できればと思う。</li> </ul>

## （５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然を生かした取組を継続し、京都岩倉自然学習ボランティアや畑の先生などの協力を得て、子どもの育ちや研究に生かすと共に、地域社会への愛着や大人への信頼感を築いていけるようにする。また、地域と連携した教育の中で育まれる資質・能力について発信する。</li> <li>・学校運営協議会「どんぐりーず」、PTA、おやじの会と連携し、保育の充実に生かす。</li> </ul>
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <p>○地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見</p> <p>○京都岩倉自然学習ボランティアのお力による取り組みの充実と、子どもの変容、研究の充実。</p> <p>○アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会 どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など</p>

## 中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉自然学習ボランティアには、毎月1回の自然の日を設け、子ども向けのプレゼンを実施していただいている。毎月自然だよりも発行していただいている。また園内の自然環境の改善に取り組んでいただいている。</li> <li>・田んぼ遊びやお茶会には、学校運営協議会理事の方のご協力で今年度も感染対策をしながらであるが実施できている。</li> </ul>	
自己	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉自然学習ボランティアの先生には、園庭の植栽を考えていただいたり、遠足に同行いただ</li> </ul>

評価	<p>き生き物について教えていただいたり、毎月の自然の日でお話しいただいたりして、子ども教員も刺激になり園内とその周辺の自然、生き物や植物への関心が高まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼ遊びやお茶会が実施できたような経験の一つとなっている。</li> <li>・おやじの会の新たな取り組みとして、夏休みに水遊び実施された。子どもには楽しい経験となった。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉自然学習ボランティアの先生には引き続きお力をいただいて、教育活動や園内研究に生かしていきたい。</li> <li>・PTAやおやじの会、学校運営協議会理事の方には 2 学期の後半にもご協力いただく予定である。</li> </ul>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA、おやじの会の取組</li> <li>・岩倉自然学習ボランティアのご協力のもと、教育、研究にどのように生かされているか。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉自然学習ボランティアの方は、公園の花を植えたり、チョウを育てたり、地域の自然を大変大切にされている。幼稚園への協力は大変有効であると思う。</li> <li>・PTA、おやじの会などの活動は負担感なく無理なくできるものに引き続き検討して欲しい。</li> </ul>

#### 最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動は、コロナ前までは休日開催していたバザーを平日開催とし、リサイクル活動も以前とは異なるやり方で再開するなど、PTA役委員の負担を軽減した形態で実施した。</li> <li>・おやじの会は、昨年度と同様に、協力していただけることを精選して実施した。</li> <li>・岩倉自然学習ボランティアの先生との連携は、園内の自然環境や教育、研究に生かすことができた。</li> </ul>
	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会理事の方にご指導いただいているお茶会は、昨年度の同様のコロナ禍での数日間に分散してする方法により実施することができた。次年度は、園児数が変わるので実施方法を検討する必要がある。</li> <li>・PTA活動、おやじの会の活動は、これからも負担の少ないやり方でできるよう検討していきたい。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然学習ボランティアとの連携を継続、発展させる。</li> <li>・運営協議会との行事の工夫を検討する。</li> <li>・PTA活動、おやじの会については次年度の体制を踏まえ考える。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも、工夫して実施できたことがありよかった。</li> <li>・次年度は、できることも増えていくと思うので、協力していきたい。</li> </ul>



## (6) 教職員の働き方改革について

### 重点目標

○ 教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、校務支援員を有効活用しながら、働き方改革を推進する。

### 具体的な取組

- ・校務支援員を活用しながら仕事の効率化を図り、働き方改革を推進し、教育の充実、教職員の健康保持増進を図る。
- ・会議の精選・効率化、ペーパーレス化、行事の内容や業務の分担の見直しと効率化、超過勤務の短縮。
- ・電話対応時間を18時までとする。
- ・水曜日をノー残業デーに設定し、実現する。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- 校務支援員の活用により改善できた業務内容。
- 教職員の勤務時間の実態把握や年休取得率。

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・校務支援員の活用により、教職員の業務はかなり改善されている。教材準備や後片付け、園内外の環境整備等かなり今までの教員の業務の負担軽減になっている。
- ・相反して、超過勤務に関しては、2学期当初にある研究発表や運動会、1学期から夏季休業中にかけての教職員のコロナ感染や濃厚接触者、体調不良などにより、シワ寄せがあり勤務時間が多くなりがちであった。

### 自己評価

#### 分析(成果と課題)

- ・校務支援員の力があることで業務改善は図れ他の必要な業務や打ち合わせ等に専念する時間が確保できた。
- ・研究発表や行事があり超過勤務の削減が難しかった。業務の精選や効率化をする必要がある。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・引き続き校務支援員をできるだけ有効に活用する。
- ・2学期後半はできるだけ業務を精選し効率よくしなくてはならない。

#### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 校務支援員の活用により改善できた業務内容。
- ノー残業デーの意識化
- 教職員の勤務時間の実態把握や年休取得率。

### 学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・業務は大変であると思うが、工夫して働き方改革をしていってほしい。

## 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・校務支援員により、業務の削減が進んでいる。
- ・ノー残業デーの意識化は十分でなかった。

- ・超過勤務は昨年度より減少している。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・業務内容を検討し、校務支援員を今まで以上に計画的に有効に活用できるようになった。今後も生かしていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・年度当初よりノー残業デーをしっかりと意識化する。
- ・校務支援員との連携は、今後も有効に進めていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・業務が多いが、校務支援員の制度が有効であると思われる。今後も働き方改革をしっかりと推進していったほしい。